

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成19年度病害虫発生予察 防除情報第1号

ヒメトビウンカ（越冬世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況について

ヒメトビウンカの越冬世代においてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が高い状況です。近年、保毒虫率が高い傾向が続いており、今後、水稻で縞葉枯病の発生が多くなることが心配されます。下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. ヒメトビウンカ（越冬世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況

- (1) 平成19年3月6～20日にかけて、県内15地点の水田（1地点当たり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査（吹き出し法）を行った結果、10㎡当たりの虫数は8.1頭（平成11.9頭）と平成よりやや少なかった（図、表）。
- (2) 上記調査時に採集したヒメトビウンカについてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査（ラテックス凝集反応法）を行った。その結果、保毒虫率は5.1%（平成2.3%）と平成より高く（図、表）、過去10ヶ年では平成9年に次ぎ2番目に高かった（図）。

2. 防除対策

- (1) 水稻移植時はウンカ類に効果のある箱施薬剤を施用する。
- (2) 普通期水稻作付け圃場では、第1世代幼虫のふ化期にあたる4月下旬～5月上旬までに耕起し、ヒメトビウンカの密度低減を図る。
- (3) 育苗圃へのヒメトビウンカの飛び込みを防ぐため、イネ科雑草地や麦類圃場付近での育苗を避ける。
- (4) 窒素過多は縞葉枯病の発生を助長するので適正な肥培管理に努める。

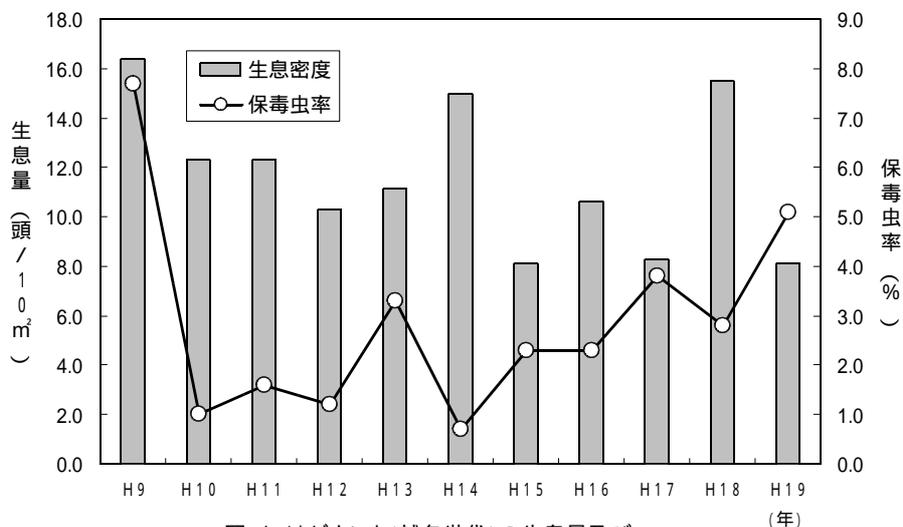


図 ヒメトビウンカ(越冬世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

表 各地点におけるヒメトビウカ（越冬世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率

調査地点	生息量 (頭 / 10m ²)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
長崎市神浦	9.4	59	1.7
長崎市琴海戸根	22.2	200	7.5
西海市大瀬戸町多以良	10.8	101	5.0
諫早市川内町	2.6	77	5.2
諫早市森山町田尻	4.7	159	1.9
諫早市多良見町元釜	11.0	200	15.5
諫早市小船越町	1.4	26	3.8
大村市鈴田	82.0	200	3.0
東彼杵町三根	33.2	165	3.0
雲仙市吾妻町干拓	46.7	200	3.5
雲仙市国見町神代	8.1	150	2.7
佐世保市長畑	7.1	200	5.5
佐世保市早岐	3.1	100	2.0
松浦市志佐	0.3	6	0
平戸市紐差	1.0	50	2.0
県 全 体	8.1	1893	5.1
平 年 値	11.9	-	2.3

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制、
アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp